

2025 度（令和 7 年度）幼稚園評価自己評価表

最終更新日	2025 年（令和 7 年） 4 月 4 日	園番 27	福山市立 緑丘 幼稚園
-------	------------------------	-------	-------------

1 幼稚園教育目標

心豊かにともに伸びる“たくましいこども”の育成

2 目指す自園の幼稚園像（ビジョン）

①一人一人が自信をもって自己表現ができる子を育てる幼稚園 ②直接体験を大切にしたい感動ある保育実践ができる幼稚園 ③保護者や地域の人々との繋がりを大切にする幼稚園

3 目指す幼児像

①やさしい子（友達の気持ちを受け止められる子） ②考える子（自分の思いを伝え、友達と一緒に考えられる子） ③粘り強い子（自己肯定感をもち、目標をもって取り組める子）
--

4 自園の現状分析（地域環境・園の環境・幼児観・保護者、地域との連携協力・現状課題など）

本園は、創立 50 周年を迎える。市中心部から離れた東部に位置し、商業施設や住宅が増え、人口の流入が激しい地域である。一昨年度より 3 年保育がスタートし、保護者・地域の期待は高く、校区外からの入園園児も多い。しかし、年々少子化と働く保護者の増加で、園児数は減少している。 コロナ禍が明け、日常が戻り、PTA 活動や懇談等の関わりの中で、保護者の関係が少しずつ構築されつつある。しかし、保護者の価値観は多様化し、こどもに気を遣いながら接し、こども主体をはき違えている保護者や支援が必要な保護者がいる。 こども達は、友達や異年齢、1 年生との関わりが日常的に行われようになり、友達大好き・遊ぶことが大好きなこどもが増えてきた。また、自信をつけてくるとあいさつが自分から出来る子も増えてきた。 しかし、近年社会状況が一変し、こどもの遊びや文化も大きく変容し、ゲーム・ユーチューブ等 ICT 機器を使って遊んでいる子が増加し、興味関心の幅が広がっている。また、こどもの実態や育ちも多様化し、共通の話題が持てなくなりつつある。療育に並行通園する等 支援を要する子も多い。人と関わる経験やいろいろな経験不足、こだわりから、不安感が強く、初めからできないとあきらめたり、チャレンジしたりしようとならない子が多い。また、自分を表出できる子が増えてきているものの、人の話を最後まで聞いたり、理解し咀嚼して自分で考えたりする力は弱い。 このような実態から、保育者はこども理解に努め、こども一人一人を丸ごと受け止め、安心して園生活を楽しめるようにする。そして、人との関わりや自然とのふれあいなどリアルで豊かな感動体験を積み重ねながら、自信をつけさせ、教育目標に迫っていききたい。
--

5 今年度の重点目標と設定理由（ビジョン実現のために）

重点目標	設定理由
心を動かし、互いに育ち合う 幼児を育てる ～認め合い、つながり合う保育 を目指して～	3 年保育がスタートして 2 年。同年齢や 1 年生を含めた異年齢との触れ合いや交流を通して、「～がやってみたい」「～ができるようになりたい」とやりたい気持ちを引き出し、思わず伝えたいくなるような援助や環境について、職員間で連携や研修を行い、こども理解や環境構成について学び合うことができた。こども達は自己充実を通して、少しずつ自己表出し、意欲的に活動する姿が見られるようになってきた。 本年度も、こどもの姿から一人一人の育ちや思いをしっかりと読み取り、やりたい気持ちを引き出すための援助や環境構成を工夫する。そして、人との関わりや自然とのふれあいなど、感動体験やリアル体験の充実を通して、こどもが心をとぎめかせ、「～したい」「～したら、～なった。次は～したい」等 友達と共有する中で、互いの個性やよさを認め合い、つながり合う保育を目指していききたいと考え、この研究主題を設定した。

※【評価】 Aー達成した Bーほぼ達成した Cーじゅうぶん達成していない Dー達成していない

	3年間の目標	1年間の目標	具体的な方策	評価	評 価 結 果
					○=反省や課題 ◎=改善のための方策
生きる力の育成	安心して自分の思いを表現できる力を育む	身近な人に自分の思いを表出しようとする	・保育者はこどもの思いを受け止め、共感したり関わろうとする姿を認めたりする		
			・こどもの小さな成長や頑張りを見取り、次への意欲を高める援助をする		
	身の周りの環境（人・こと・もの）に自分から進んで関わる力をつける	遊びが継続し、次の遊びにつながるよう、実態に応じてマネジメントする	・年間計画に基づき発達段階や幼児実態・季節等に応じて、興味を持って遊ぶことができる環境構成を工夫する		
教師の役割	互いに認め合いつながり合えるよう、保育を工夫する	保育の質を高める研修を工夫し、実践を進める	・遊びの環境を週1回は振り返り、援助・環境構成のあり方について意見交流する ・幼児実態をもとにねらいに迫るためにカリキュラムを柔軟に見直し実践する		
	個々の実態に応じた指導・援助・環境を工夫する	個々が自己充実できるよう、こども理解に努める	・幼児の育ちを読み取り、職員間で共有する ・関係機関や相談機関と丁寧に連携し、学んだことを実践に活かす		
信頼される幼稚園	幼稚園教育の理解を広める	アンケートで「便りや手紙、対話等でこどもの様子や成長がわかる」と肯定的評価する保護者を87%以上にする	・保護者に手紙・便り・対話等でこどもの様子や育ちを知らせる ・スマート保育やホームページを活用し、園長だより・園だより・クラスだよりをニーズに応えられるよう配信する		
	子育てについて気軽に相談できる幼稚園にする	アンケートで「安心して幼稚園に預けられる」と肯定的評価する保護者を87%以上にする	・職員から保護者に積極的に声かけをし、信頼関係を築き、子育てについて共に考える機会をもつ ・学級懇談やPTA活動を工夫し、保護者同士のつながりをつくる		